

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 28 日現在

機関番号：33910

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26284139

研究課題名(和文) 日中韓在住アフリカ人の生活戦略とアジア アフリカ関係の都市人類学的研究

研究課題名(英文) Urban Anthropology on the Life Strategy of Africans staying in Japan, China and Korea and relationship between Asia and Africa.

研究代表者

和崎 春日 (WAZAKI, Haruka)

中部大学・国際関係学部・教授

研究者番号：40230940

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,300,000円

研究成果の概要(和文)：世界の大市場となっている日中韓の関係、そして世界の新市場として重要度を増し近年関係が増大しているアフリカと日本との関係、今日、この重要な両関係をつないで複合対象とし、日本都市・中国都市・韓国都市に流入し近年のグローバル化を具現して活発に活動するアフリカ人の生活動態を、反対の東アジアからアフリカへという方向も考慮に入れて、調査・研究し発表した。日中韓の都市(東京・大阪・名古屋、広州、ソウル・アンサン中心)でのアフリカ人の動態についての研究を、20本余りの論考を中心として公表し、韓国で開催の国際アフリカ研究の学会でも日本のアフリカ学会の承認・助成を得て、本共同研究の成果を発表した。

研究成果の概要(英文)：The main targets of our co-operative research was to study relationship among China, Korea and Japan which have become one of the world's biggest economic powers, and was at the same time to study relationship between Japan and Africa which has been becoming a new world big economic market. So, we researched, the active movements and economic activities of Africans, as realizers of globalization, in three countries, especially in Tokyo, Osaka, Nagoya, Kwantzhou, Seoul and Ansan in Asia. We studied above those scientific items and themes and published so many articles and oral deliveries in the academic meetings of Associations of African Studies and Anthropological Studies etc. At last, as one of the valuable academic achievements, we participated in African Studies International Meeting held at Korean University of Foreign studies in Seoul and, we might say, we succeeded in revealing our research fruits to Asian countries and the world as well.

研究分野：文化人類学 アフリカ地域研究

キーワード：アフリカ 多民族共生 移民 外国人労働者 都市人類学 日中韓関係 東アジア アジア アフリカ関係

### 1. 研究開始当初の背景

世界の大市场となりつつある中国と日本との関係、そして世界をリードする技術を持ち経済発展著しい韓国と日本との関係、さらに世界の新たな市場として重要度を増し近年その関係が増大しているアフリカと日本との関係、今日、欠くことのできないこの重要な両関係をつないで複合対象とし、日本都市・中国都市・韓国都市に流入し近年のグローバル化を具現して活発に活動するアフリカ人の生活動態があり、これを調査・研究する必要性に迫られていた。

また、これまでまったく調査されてこなかった中国都市・韓国都市のアフリカを含んだ国際性の事態調査を、アフリカ人の流入・移民のパースペクティブから、都市人類学として研究する必要性が高まっていた。

### 2. 研究の目的

上記のような時代・社会背景のもと、東アジア内の中国と韓国と日本との関係を考えるという目的をまず持つ。さらに、新たな世界市場として重要度を増し近年その関係が増大しているアフリカ人の、日本国内や東アジアへの無視できない大量の流入がなされている大きなディアスポラ動態を、考察するという目的をもつ。つまり、今日、この重要な両関係をつないで複合対象とし、日本都市・中国都市・韓国都市に流入し近年のグローバル化を具現して活発に活動するアフリカ人の生活動態の調査・研究から、今までにない新たな「アジア・アフリカ都市間の相互移動の人類学」つまり「アフラシアの相互移動の都市人類学」を推進することを本共同研究の重要な複合目的とする。

本研究によって、日中アフリカ間でアフリカ人が「主語」となった往復・反復的な大量の移動活動が明らかにされ、アフリカや南側世界に付された歴史的「暗黒」概念を払拭し、新たな多地域・多元的な共生モデルを提示することを目指す。

### 3. 研究の方法

アジア・アフリカ関係のなかで、バンコックや香港、シンガポール、東京・名古屋・京阪神などの各都市にも、多くのアフリカ人が移動・滞在・定着しているが、近年、中国都市への流入、特に広東省の諸都市（広州、深圳、香港）、その中でもとりわけ広州へのアフリカ人移入（20万人）が突出して大きい。また、韓国はアジアのすでに経済発展した国である日中韓のうち外国人労働者政策で最も開放的政策に踏み切っており、その外交方針と国際社会の形成では一歩先をいっている。こうして、日本都市（東京・名古屋・京

阪神の三大都市圏）と中国都市（広州、深圳、香港）と韓国都市（ソウル、アンサン）でのアフリカ人の活発な商業活動と大量で積極的な営為を具体的にフィールドワークにより調査していく。こうして、アフリカ - 中国の相互関係とアフリカ - 韓国の相互関係とアフリカ - 日本の相互関係を複合的に調査し、今までになかった「日中韓とアフリカを結ぶアフラシアの相互移動の都市人類学」研究を推進する、という方法をとった。さらに日中韓だけではなく、中継点などをも視野にいれ、東南アジアをも含んだアジア全体に視点を広げて、アフリカからアジア全体にどれだけアフリカ人の来訪・移住による交流があるかを調査・研究し、次の研究発展につなげる展望をおこなった。

### 4. 研究成果

中国と韓国と日本のなかで、アフリカ人口を最も多く誇るナイジェリア人（特にイボ人）の生活動態については、松本尚之、栗田和明、和崎春日を中心に、調査研究を着実に進め、論文等で発表した。

フランス語を喋るアフリカ人たちは、イスラームとの関係もあり、特色ある集合形態をもっている。そこで、西アフリカのフランス語系のセネガル人、コート・ジヴォール人、マリ人、ギニア人、カメルーン人たちは、商業活動や音楽芸能活動で、日中韓国アジアに展開しており、その特色あるディアスポラ動態を追及した。

特に、三島禎子は、西アフリカの商業民セネガル人の国際移動と人口動態を「アフリカ人商業民の歴史的・地理的展開について、パリデカルト大学人口開発研究センターとの連携（CEPED : Centre pour l'étude de la Population et le Développement）を長年もって、アフリカ人移民特にソニンケ商業民をめぐる研究発表と諸外国の研究者との研究交流を促進させた。

松本尚之は、在日ナイジェリア人の経済活動に関する調査研究（服飾業を中心に）を、アフリカ系移民（主に在日ナイジェリア人）と故郷の関係に関する調査研究として推進した。特にアフリカ系移民と故郷の王制・首長制との関係については、詳細な研究調査をおこなった。日本国内における調査では、主に首都圏および大阪において調査を実施し、その成果として、2017年度内に2つの論文が印刷中（栗田和明共同研究員が編集する論文集と、韓国外国語大学の論文集）である。中国における調査では、中国広州のアフリカ人教会を訪問し、香港における予備調査を実施した。

栗田和明は、香港、広州、シンガポール、

バンコックでのアフリカ人の生活動態の研究を深め、特に 10 年来の広州でのアフリカ人（タンザニア人、とくにニャキユサ人を中心に）の生活共同の通時的・歴史的分析をおこない、これを理論化して、アフリカ人の海外移動についての時間的集合モデルを、諸発表や書物で公表し、共同研究に貢献した。

嶋陸奥彦は、韓国語を理解する共同研究者であり、韓国人アフリカ研究者の韓ゴングの韓国アフリカ学会の学会誌『アフリカ学会誌』27 集 2008 年に掲載された「本国に帰還したアフリカ移住労働者の社会文化的適応とアイデンティティに関する研究 - ガーナとナイジェリアの労働者を中心に」の韓国語で書かれた全文を、日本語訳にして、共同研究者に資料として提供し共同研究に貢献した。2016 年度には、共同研究者のなかで、韓国語情報からいち早くアンサン市におけるアフリカ人運動会の情報を得て、これをフォローしてフィールド調査を実施した（報告は 2017 年度）。

田中重好は、こうしたアジアにおける人的交流を、とくに災害などの緊急事態に際しての協働性をめぐって、共同性や公共性への理論へと昇華する作業を繰り返しおこない、精力的な論文・書物の発表をおこない、とくに社会学における近年のメインテーマ「公共圏」の理論化へと本共同研究の国際交流を発展させた。

長坂康代は、共同研究 3 年目に共同研究者となりベトナムでのアフリカ人の行動調査を先導し、代表者・和崎の調査を流暢なベトナム語での現地でのコミュニケーションを通じて、共同研究をサポートし諸発表をおこなって共同研究に貢献した。

連携研究者の中では、とくに渋谷鎮明が、観光をめぐる人口の国際移動を追及し、日中台韓の東アジアにおけるインバウンドとアウトバウンドの人口移動を研究し論考を発表した。若林チヒロは、論考としての共同はなかったが、医療福祉の専門分野から共同研究会において、在日アフリカ人の HIV 予防や日本からの帰国アフリカ人とその日本人家族の健康問題についての貴重な資料を提供した。また、奈倉京子は、漢人華僑の人口動態研究から、在外国居住者と人々の共生の研究を深めその理論的な考察を論文に発表して、共同研究に貢献した。

私たちのこの共同研究の共同成果発表では、在アジア・アフリカ人をめぐる共同研究の成果として、代表者・和崎春日と共同研究者・松本尚之、および同・栗田和明は、共同研究を代表し、日本アフリカ学会の公的な研究への承認と助成を得て、2015 年 10 月には、韓国アフリカ学会事務局がある韓国外国語大学校にて開催されたアフリカ国際学会

「Crossing and Hybridity in African Societies and Cultures, The Fifth IAS Humanities Korea (HK) International Conference,」第 5 回国際大会に参加して研究発表を行った。共同研究者・嶋陸奥彦も、オブザーバーとして参加し、在日中韓アフリカ人の生活動態に関する意見交換と情報交換を行い共同研究に貢献した。

## 5. 主な発表論文等（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

### 〔雑誌論文〕(計 17 件)

松本尚之「日本のなかのアフリカ～在日アフリカ人の生活世界～」亜細亜大学国際関係学部編『亜細亜発世界 - インターナショナル・フォーラム講義録 2016 -』第 1 号、2017 年、査読なし、pp. 55-60。

松本尚之「ナイジェリアにおける体制転換と王位/首長位」佐久間寛編、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 2016 年度公開シンポジウム報告書『体制転換の人類学』2017 年、査読なし、pp.152-170。

和崎春日「東南アジア在住アフリカ人の生活動態 ベトナム・スポーツ界におけるアフリカ人の活動」『貿易風 中部大学国際関係学部論集』第 11 号、2016 年、査読なし、pp.37-52。

松本尚之「ナイジェリアにおける体制転換と伝統的権威者たちの地位 第四次共和制(1999-現在)とイボ社会のエゼたち」『早稲田大学文学学術院文化人類学年報』11 号、2016 年、査読なし、pp.21-27。

三島禎子「サハラの変遷商人から移民へ - 世界を移動するソニケ民族」季刊民族学 157 号、2016 年、査読あり、pp.93-103。

田中重好「東日本大震災におけるアンケート調査から見る津波避難行動」『名古屋大学社会学論集』36 号、2016 年、査読なし、pp.22-47

田中重好「コミュニティと復興」日本社会病理学会『現代の社会病理』31、2016 年、査読あり、pp.23-38。

長坂康代「ベトナム人労働者の受け入れに関する行政施策の比較 勸告安山市『多文化村特区』と愛知県提案『外国人雇用特区』」『愛知大学一般教育論集』52 号、2016 年、査読なし、pp.1-13。

渋谷鎮明「各種宿泊施設における『情報交換ノート』のインバウンド観光研究資料としての利用可能性」『貿易風』Vol.12、2016 年、査読あり、pp.218-229。

田中重好「新しい防災を求めて」震災問題情報連絡会『東日本大震災研究交流会研究報告書』1 巻、2015 年、査読なし、pp.43-44

Wazaki Haruka, Life Strategy of Africans Living or Staying in Japan,

China and Korea-Bridge to enlarge Afro-Asian Studies up to Vietnamese Studies and South-East Asian Studies, Proceedings, Crossing and Hybridity in African Societies and Cultures, The Fifth IAS Humanities Korea (HK) International Conference, 2015、 pp. 31-38, 査読なし。

Matsumoto Hisashi, Living in Japan as 'Kokujin': African Migrants and Consumption of Popular Culture in Japan , Proceedings, Crossing and Hybridity in African Societies and Cultures, The Fifth IAS Humanities Korea (HK) International Conference, 2015、 pp.39-47. 査読なし。

Kurita, Kazuaki, Tanzanian Traders in South-East Asia - Cases in Guangzhou, Hong Kong and Bangkok. "Crossing and Hybridity in African Societies and Cultures" ed.by Institute of African Studies of Hankuk University of Foreign Studies, the Fifth Institute of African Studies Humanities Korea International conference, 2015、 pp.49-58, 査読なし。

Shigeyoshi Tanaka and Makoto Takahashi, The Sumatora-Andaman Earthquake and the Great East Earthquake : A Comparative Sociology of Disaster, ' NAGOYA DAIGAKU SHAKAIGAKU RONSHU ' 35, 2015, pp.44-73, 査読なし。

松本尚之「在日アフリカ人の定住化とトランスナショナルな移動 - ナイジェリア出身者の経済活動を通して」『アフリカ研究』85号、2014年、査読あり、pp.1-12。

奈倉京子「外国人住民との「共生」のための条件 「ホスピタリティ(異人歓待)の再検討」『日中社会学研究』第22号、2014年、査読あり、pp.54-65。

和崎春日「人類学方法論としての日本 - アフリカ邂逅誌」『貿易風 中部大学国際関係学部論集』第9号、2014年、査読なし、pp.221-233。

#### [学会発表](計7件)

松本尚之「在日アフリカ人と東アジア交易 米国の黒人文化をめぐる人とモノの移動」立教大学平和・コミュニティ研究機構公開シンポジウム『流動する移民社会 頻繁な移動者に注目して』(2017年2月18日、於：立教大学、東京都豊島区)

長坂康代「ベトナム人の移動とネットワークに関する研究 韓国アンサン『多文化村特区』を中心に」立教大学平和・コミュニティ研究機構公開シンポジウム『流動する移民社会 頻繁な移動者に注

目して』(2017年2月18日、於：立教大学、東京都豊島区)

和崎春日「韓国首都ソウルの結節機関とアフリカ人の集合 イテウォン地区郊外アンサン」立教大学平和・コミュニティ研究機構公開シンポジウム『流動する移民社会 頻繁な移動者に注目して』(2017年2月18日、於：立教大学、東京都豊島区)

渋谷鎮明「日韓共同シンポジウム・近代文化歴史景観の活用と復元」韓国文化歴史地理学会、2016年12月10日、口頭発表、済州市、韓国

長坂康代「ハノイの民衆生活から学ぶこと」『ベトナム文化セミナー』研究集会、JBAV生活環境部会・生活サポート委員会主催、2016年9月14日、Hanoi, Vietnam  
Kurita Kazuaki, "Dynamic Equilibrium of Immigrants' Society: A Case of Tanzanian Traders in Guangzhou" 2016.3.18, INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON Migration and Tourism Infrastructures in Global Cities, School of Housing Building and Planning, Universiti Sains Malaysia, Penang, Malaysia

MISHIMA Teiko, "Anthropological Analysis on Africa-Asia Trade: Dynamics of an Ethnic Group", International Symposium: 《Global Migration and Transnational Activities in the Pacific Rim》, National Taiwan University, 2014.10.15. Taipei, Taiwan

#### [図書](計9件)

田中重好「災害対策と公共性」金子勇編『講座 社会変動 計画化と公共性』第10巻、ミネルヴァ書房、2017月、pp.129-162

栗田和明(編著)『流動する移民社会 環太平洋地域を巡る人びと』昭和堂、2016年、170pp、ISBN978-4-8122-1547-0

栗田和明「移動する者から見た移民コミュニティ 広州へのタンザニア人交易人に注目して」『流動する移民社会』昭和堂、2016年、ファーラー、グラシア、大橋健一、三島禎子、杜国慶、市川誠と共著、pp.1~32

栗田和明「移動する人の現状と研究視点 移民の文化への注視」『流動する移民社会』昭和堂、2016年、ファーラー・グラシア、大橋健一、三島禎子、杜国慶、市川誠と共著、pp.159-168

三島禎子「アフリカ系商人の富裕化への奇跡 - ソニンケ人商人の移動と生活の営み」栗田和明編、『流動する移民社会』昭和堂、2016年、栗田和明、ファーラー・グラシア、大橋健一、杜国慶、市川誠と共著、pp.87-110。

松本尚之「グローバル化の中の伝統的権威者：ナイジェリア・イボ社会における国際移民と首長位」太田至 総編集『紛争をおさめる文化 - 不確実性とプリコラージュの実践』アフリカ潜在カシリーズ第1巻、京都大学学術出版会、2016年、太田至、松田素二、石田慎一郎、平野美佐、ニエムジエ、ジョン・ホルツマン、木村大治、金子守恵・重田真義、フランス・ニヤムンジョと共著（総 374pp.）、pp.31-56 担当。  
CHARBIT, Yves et Teiko MISHIMA (éds.), Question de migrations et de santé en Afrique sub-saharienne. Paris, L' Harmattan, 2014. 242pp.  
MISHIMA, Teiko, «Anthropologie des Migrations internationales des Soninké : Formation et transmission de la richesse ». in Y. Charbit et T. Mishima (éds.) Question de migrations et de santé en Afrique sub-saharienne. Paris, L' Harmattan, pp.99-123, 2014  
松本尚之「国際移民と内発的発展 - 日本に暮らすアフリカ人と発展の場」,北脇秀敏・金子彰・岡崎匡史編『国際開発と内発的発展 - フィールドから見たアジアの発展のために』朝倉書店, 2014年、pp.146-156。

#### 〔その他〕

松本尚之「書評 栗田和明編『流動する移民社会 - 環太平洋地域を巡る人びと』」『アフリカ研究』90巻、2016年、pp.124-125。  
三島禎子『みんなく映像民族誌』第21集 監修、撮影・製作 国立民族学博物館、「セネガルの生活と文化」日本語、65分、2016年3月。  
三島禎子「みんなく世界の旅セネガル 4 - アフリカにある商品、その流れをたどると・・・」『毎日小学生新聞』2016年3月5日。  
三島禎子「みんなく世界の旅セネガル 3 - プリント布が生まれた歴史的背景」『毎日小学生新聞』2016年2月27日。  
三島禎子「みんなく世界の旅セネガル 2 - 好きな布で服を仕立てる」『毎日小学生新聞』2016年2月20日  
三島禎子「みんなく世界の旅セネガル 1 - 米を食べるようになった訳とは」『毎日小学生新聞』2016年2月13日。  
三島禎子「市に集う」『月刊みんなく』459号、2015年12月 pp.2-3。  
三島禎子「砂漠を越え陸海を渡る商人」『産経新聞』2015年6月9日。  
三島禎子「遅れてきた手紙」『毎日新聞夕刊』2015年4月9日。  
和崎春日「日本に住むアフリカ人の暮らし」『アフリカ学事典』寺嶋秀明・北川勝

彦・伊谷樹ほか編、昭和堂、2014年4月、pp.158 - 161。

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

和崎 春日 (WAZAKI, Haruka)  
中部大学・国際関係学部・教授  
研究者番号：40230940

##### (2) 研究分担者

田中 重好 (TANAKA, Shigeyoshi)  
名古屋大学・環境学研究科・教授  
研究者番号：50155131

栗田 和明 (KURITA, Kazuaki)  
立教大学・文学部・教授  
研究者番号：10257157

三島 禎子 (MISHIMA, Teiko)  
国立民族学博物館・民族社会研究部・  
准教授  
研究者番号：20280604

松本 尚之 (MATSUMOTO, Hisashi)  
横浜国立大学・大学院都市イノベーション  
研究院・准教授  
研究者番号：80361054

嶋 陸奥彦 (SHIMA, Mutsuhiko)  
東北大学・文学研究科・名誉教授  
研究者番号：30115406

長坂 康代 (NAGASAKA, Yasuyo)  
愛知東邦大学・経営学部・非常勤講師  
研究者番号：00639099  
(2016年度追加)

##### (3) 連携研究者

渋谷 鎮明 (SHIBUYA, Shizuaki)  
中部大学・国際関係学部・教授  
研究者番号：60252748

若林 チヒロ (WAKABAYASHI, Chihiro)  
埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授  
研究者番号：40315718

奈倉 京子 (NAGURA, Kyouko)  
静岡県立大学・国際関係学部・講師  
研究者番号：70555119